

第38回 JC 杯少年野球大会細則

- 1 試合の運行に関する統制及び審判は、宮古野球連盟にて行う。
- 2 試合は、高学年7回90分ルールとし、3回以降10点差、5回以降7点差以上の場合
はコールドゲームとする。低学年は5回60分ルールとし、3回以降7点差以上はコールドゲームとする。
決勝戦は、タイムコールドを適用しない。ただし、低学年は、最長120分とする。
- 3 ベンチは、組み合わせの若い番号を一塁側とする。
- 4 所定のイニング数、もしくは所定の時間終了後、同点の時は、特別ルールを行う。
*継続打順とし前回の最終打者を一塁走者とし二塁・三塁の走者は順次前の打者とし
無死満塁の状態にして行う。尚、勝敗が決するまで、エンドレスとする。
- 5 投球練習は、初回7球、2回目より3球とする。
- 6 投手の投球制限について、児童の健康維持を考慮し、**高学年は1日7イニング、低学年
は5イニングまでとする。(延長2イニングは特別とする)**
投球イニングについては、3分の1回(アウト1つ)未満の場合であっても、1イニング
投球したものとして数える。
- 7 試合中は、ゲームに直接関係のない応援の父兄はベンチに入れない。
- 8 ファウルボールは、直ちにベンチ側に近いチームが取りに行くこと。
- 9 定められた者以外は、ベンチの縁石、白線よりみだりに出ないこと。
- 10 楽器を使用したり相手チームを誹謗したり、やじったりしないこと。本大会は、青少年
健全育成が最大の目的であるので、品位ある言動に心がけるようにすること。
- 11 選手及び監督・コーチの履物は、運動靴又はゴムスパイクまでとし、それ以外のものは、
使用しないこと。
- 12 選手交代は、必ず監督が球審に申し出ること。
- 13 抗議は、監督と主将のみとする。
- 14 攻守交代は、敏速に行う。打者は、速やかに打席に入る。
- 15 捕手は危険防止のため、全日本軟式野球連盟公認マーク入りのマスク・スロートガード・
レガース・プロテクター・捕手の保護用のヘルメットを着用すること。打者・走者・次打
者・ベースコーチとも公認マーク入り両耳フラップヘルメットを着用すること。
- 16 選手の危険予防及び健康管理については、チームにおいて十分に留意すること。
- 17 投手が変化球を投げることを禁止する。投げた時のペナルティは競技者必携32～34
項を参照するものとする。
- 18 高学年の選手を低学年チームの試合に出場させた場合は、失格とする。
低学年の選手を高学年に出場は認めるが、二重登録が、判明した場合は、試合の途中で
も失格とする。
- 19 試合に勝利したチームの登録メンバーがグラウンド整備を行う。
- 20 試合後30分は休憩を設ける。ただし、両チームの協議の結果で変更も認める。
- 21 チームの責任は、責任者において一切負うものとする。
- 22 試合中の不慮の負傷については、応急処置は施すが、それ以外の責任は負わない。